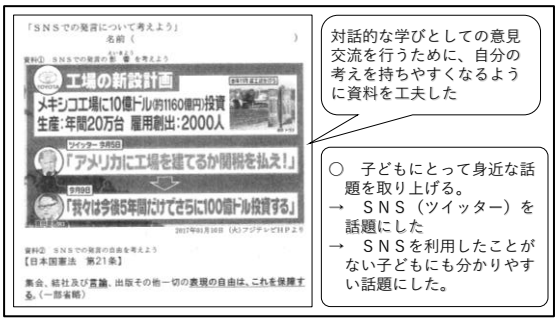
実践記録（小５・道徳）

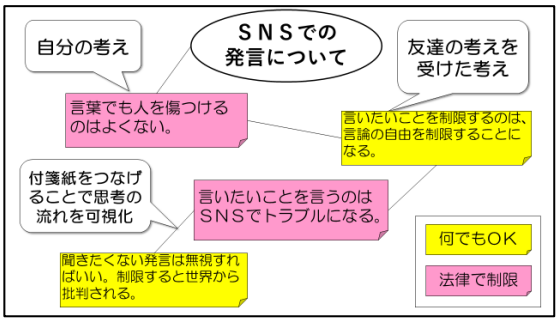
１　ねらい

付箋紙を使い、対話的な学びとしての意見交流を行うことによって、新たな意見を自分の考えに取り入れ、自分の考えを深めることができるようにする。

２　手立て



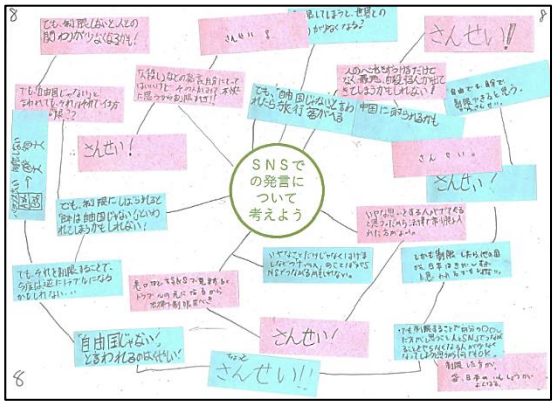
【自分の考えをもつための工夫】



【付箋紙とシンキングツールを使った思考の可視化】

３　実践の様子

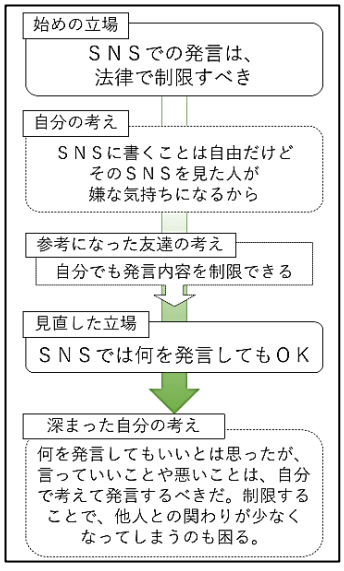
始めに資料を配り、ＳＮＳが社会に与える影響について、子どもに考えさせた。ＳＮＳでの発言によって、数兆円の経済効果がもたらされた事例を伝えると、子どもからは、「ＳＮＳの影響力は大きいね」というつぶやきが聞かれた。また、発言の自由を考えさせるために、日本国憲法の条文やＳＮＳを使った誹謗中傷の記事を紹介した。子どもからは、「自由といっても、何を発言してもいい訳ではないね。」というつぶやきが聞かれた。



【付箋紙を使った意見交流の様子】

次に、選んだ立場とその理由をワークシートに記述させてから、意見交流に臨んだ。子どもは画用紙に貼られた意見を読むと、自分が考えたことを次々に付箋紙に書いて貼り足していった。そこで、それぞれの意見が、どの意見を受けて書かれたものなのかを可視化するために、付箋紙同士を線で結ぶようにした。「ＳＮＳでの発言の自由を制限すべき」という立場が比較的多かったが、発言の自由を制限する社会はどのような社会になるのかを子どもに話すと、発言の自由を認める考えの児童が現れ始めた。

最後に、自分がよいと感じた友達の意見を踏まえて、改めてどちらの立場を取るのか考えた。双方の立場から自分の考えを発表させたところで、どちらが正解なのか、と児童たちに問いかけたが、「どちらにも良い点と悪い点があるので、バランスを取ることが大切だ」との意見が出された。



【子どもの考えの変容】

４　成果と課題

○　児童にとって身近な話題を取り上げたことで、自分の考えを持ちやすくなった。

○　積極的な意見交流が行われたことで、様々な意見が出され、児童たちは自分の考えを深めることができた。

●　資料の内容によって、児童たちの考えが偏ってしまった。